



Super Science High School

スーパーサイエンスハイスクール

2025年度版



SSH
Super Science High school

文部科学省指定

科学を支え、未来へつなぐ
JST 科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

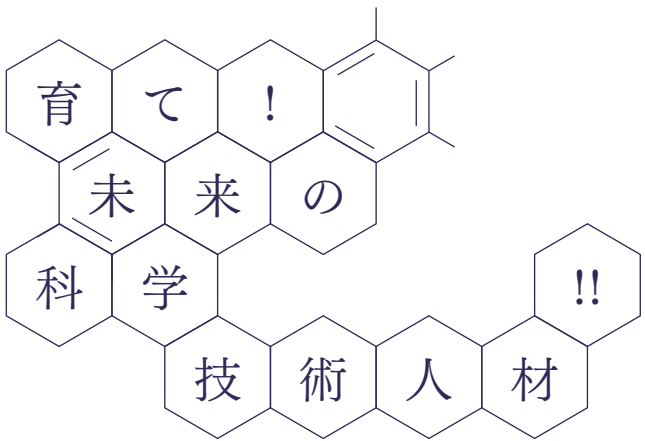
国立研究開発法人科学技術振興機構
理数学習推進部 先端学習グループ

〒332-0012 埼玉県川口市本町4-1-8 川口センタービル
Tel.048-226-5680
e-mail : ssh-info@jst.go.jp
<https://www.jst.go.jp/cpse/ssh/index.html>



令和7年度版 2025.6.1,500

JST 国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency



SSH とは…

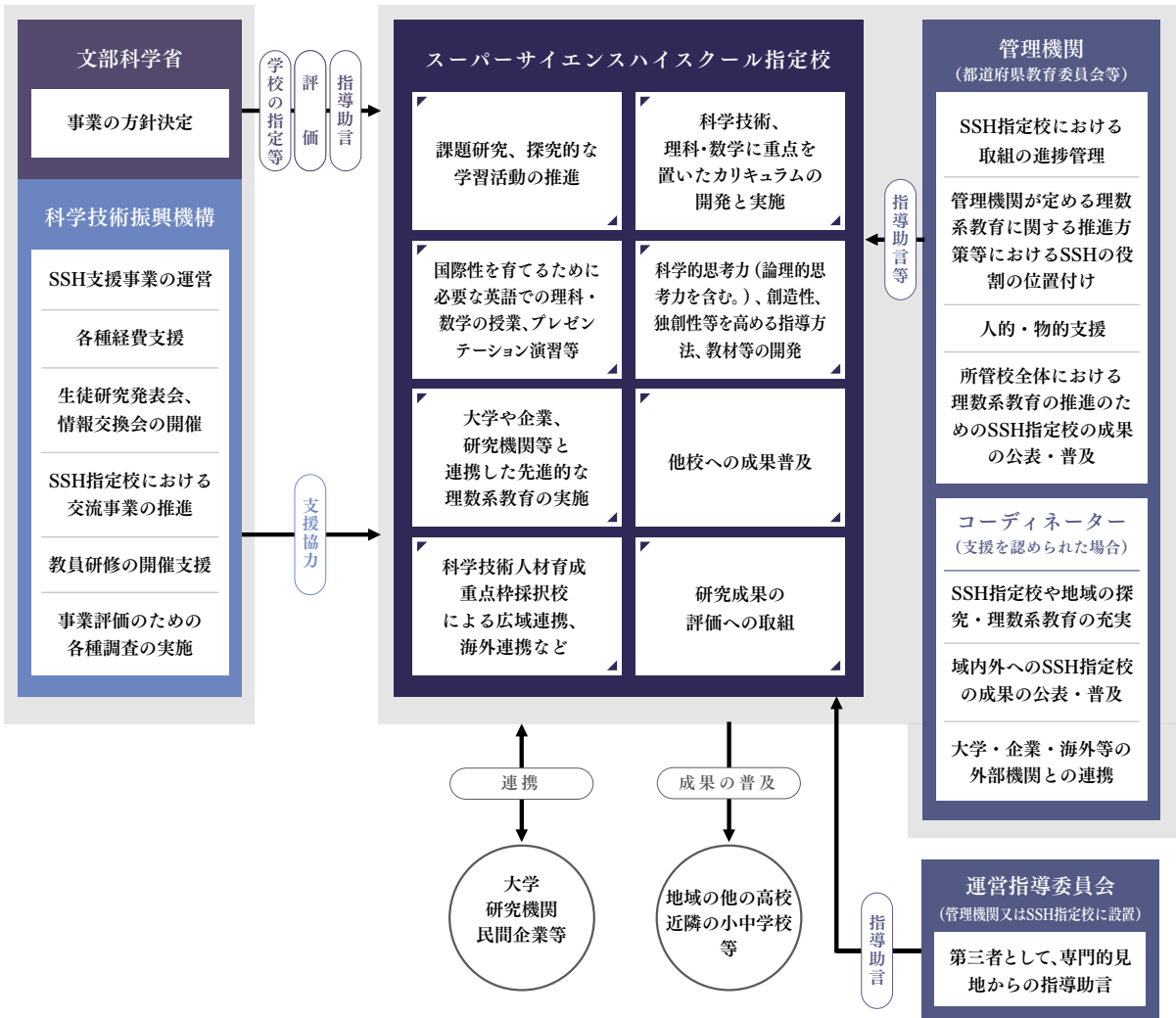
文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」は、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的な探究能力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための取組です。

SSHでは「科学への夢」「科学を楽しむ心」を育み、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことを

目指しています。SSHでは、平成14年度より大学や研究機関等とも連携して先進的な理数系教育を実施し、魅力的なカリキュラムを開発するなど、科学技術に夢と希望を持つ、創造性豊かな科学技術人材の育成に取り組んできました。また、SSH指定校を拠点校として、地域への成果の普及などを行っています。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)は、SSH指定校への物品購入、研修・講師費用等の支援、並びに発表会等の企画運営などを行い、SSHと密接に連携しその取組を積極的にサポートしています。

先進的な理数系教育による創造性豊かな科学技術人材の育成



基礎枠・文理融合基礎枠

【基礎枠】

自然科学を主とする先進的な科学技術、理科・数学教育（以下「理数系教育」という。）に関する研究開発を実施し、将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成を目指す。

【文理融合基礎枠】

社会の諸課題に対応するため、自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」との融合による「総合知」を創出・活用した先進的な理数系教育に関する研究開発を実施し、将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成を目指す。

以下4区分があります

創成期（Ⅰ・Ⅱ期）

指定期間：各5年

SSH指定校としての取組・体制等の実施・確立

発展期（Ⅲ・Ⅳ期）

指定期間：各5年

自らの強み・特色を深化・恒常化し域内外に波及する取組を確立

リーディング期（先導的改革Ⅰ・Ⅱ期）

指定期間：各3年

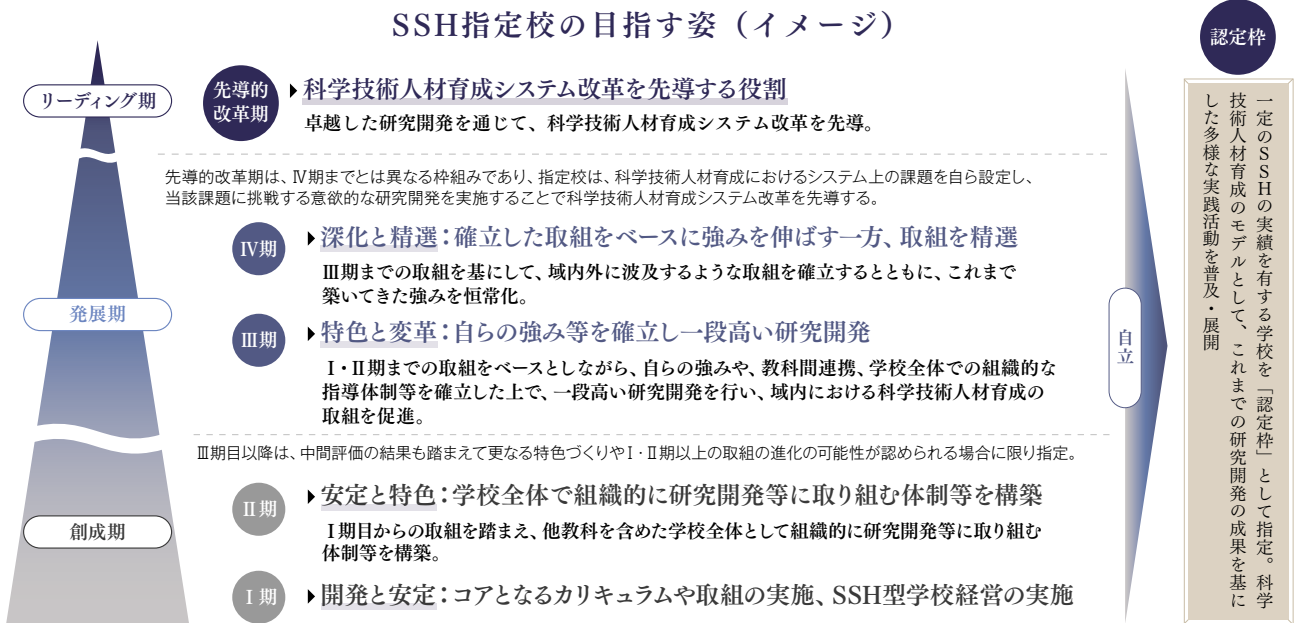
科学技術人材育成システム改革を先導

認定枠

指定期間：5年

全国的なモデルとしてこれまでの研究開発の成果を基にした多様な実践活動を展開・普及

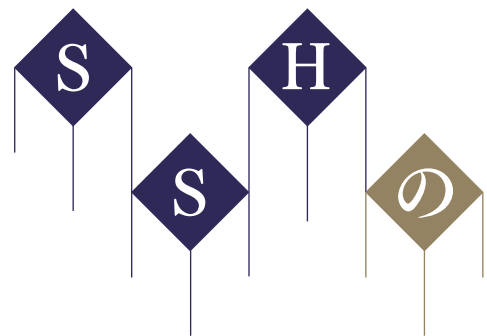
SSH指定校の目指す姿（イメージ）



科学技術人材育成重点枠（最長5年間）

SSH指定校は基礎枠及び文理融合基礎枠の取組に加え、科学技術人材の育成に係る更なる取組を行う場合、希望すれば科学技術人材育成重点枠に応募可能。応募のあった学校に対して審査の上、追加支援を行う。その場合、以下6区分のいずれかの取組を行う。

1 広域連携	理数系教育における広域連携の拠点校として、SSH指定校としての経験等で培った理数系教育のカリキュラムや指導法、評価法、関係機関とのネットワーク構築手法等を、管理機関の協力を得ながら、オンライン等を活用すること等を通じて、都道府県全体、都道府県を超えた広域又は全国的に他校（SSH指定校以外の学校を含む。）へ普及し、広く周辺地域全体の理数系教育の質の向上を図る。
2 海外連携	海外における先進的な理数系教育を行う学校や研究機関等との間でオンライン等も活用しながら定常的な連携関係を構築して、国際性の涵養を図るのみでなく、将来、言語や文化の違いを超えて共同で研究活動等を行えるような人材の育成を目指す。
3 革新共創	社会問題・地域課題について、NPO法人・企業等との連携や、先端的な科学技術の知見やデータサイエンスの手法等を活用しながら、文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行うことにより、新たな価値の創造を志向する人材を育成する（アントレプレナーシップ教育等を含む。）。
4 探究推進	優れた研究開発の成果を活用した取組を更に深化・高度化、普及展開するために、「早期ステップアップ制度」を活用した学校のみが申請可能。
5 高大接続（高大接続による一貫した理数系トップレベル人材育成プロセスの開発・実証）	高校が主体となり、大学との組織的な協力の下に、その人材像や身に付けさせる資質・能力について共通理解を形成し、①高校段階、②大学入試から大学入学までの段階、③大学入学後の各段階における科学的な課題研究等を通して、一貫した人材育成プロセスを共同で開発・実証することによって、将来のサイエンス、イノベーションを牽引するロールモデルとなるような理数系トップレベル人材を育成する。
6 その他	上記5つの区分以外の科学技術人材育成に資する特色ある取組。例えば、「全国的な規模での共同研究」として、国内の複数の高等学校等が、それぞれの地理的条件や環境を活かし、単独校では実現しがたい全国的な共同研究を実施する、等が考えられる。



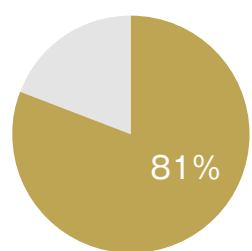
成果と事例

将来の国際的な科学技術人材の育成を図るため、SSH指定校は独自のカリキュラム開発などを行い、活発な取組を行っています。

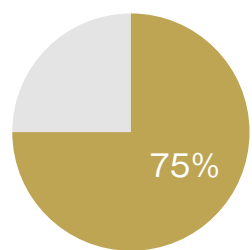
ここではその成果と事例について紹介します。

生徒の科学技術への興味・関心や姿勢に関する効果

未知の事柄への興味(好奇心)が向上したと回答した生徒

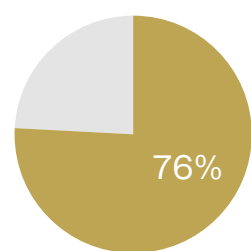


発見する力(問題発見力、気づく力)が向上したと回答した生徒

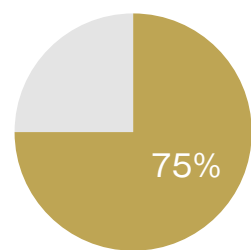


【令和6年度SSH意識調査】国立研究開発法人科学技術振興機構

自分から取り組む姿勢(自主性、やる気、挑戦心)が向上したと回答した生徒



真実を探って明らかにしたい気持ち(探究心)が向上したと回答した生徒



【令和6年度SSH意識調査】国立研究開発法人科学技術振興機構

MESSAGE

卒業生

SSHは将来の目標を見つける1つの道しるべ

広島県立西条農業高等学校卒業生

私はSSH活動の一環で、大学の遺伝子組換えに関する研究に参加し、植物の遺伝子操作で良い品種を作出することが、農業の課題解決につながっている事実を知りました。その後の課題研究では、遺伝子組換えによるストレス耐性植物の作出に取り組みました。何度も失敗しましたが、粘り強く実験を繰り返す中で解決方法を見出し、研究する楽しさを知ることができました。この経験が基となり、品種改良を用いた課題解決に深く取り組みたいと考えようになりました。大学ではシクラメンの新品種作出に関する研究を通して、科学的な視点から農業を捉えることの必要性を学び、次の世代に伝えていくべきとの使命感を抱きました。このように、SSHの活動が自分の将来を決めるきっかけとなり、現在では母校である農業高校に勤務しています。科学的な視点を持ち、何事にも失敗を恐れず、農業の諸課題を解決できる生徒の育成を目指して、日々の授業づくりに取り組んでいます。



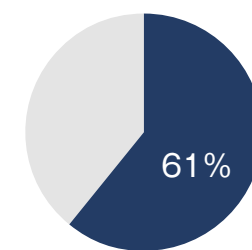
通学路花壇の維持管理を指導している様子

平野 美羽

広島県立西条農業高等学校 園芸科 教諭

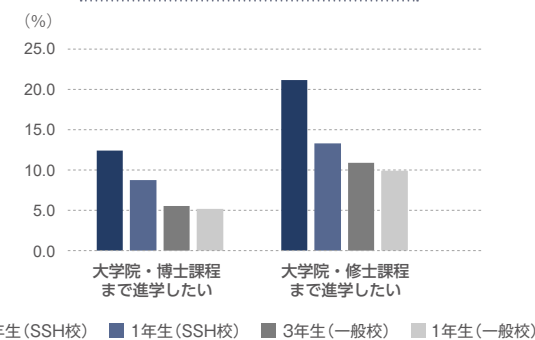
生徒の進路選択に与えた影響

進路について専攻分野の選択に影響があったと回答した生徒



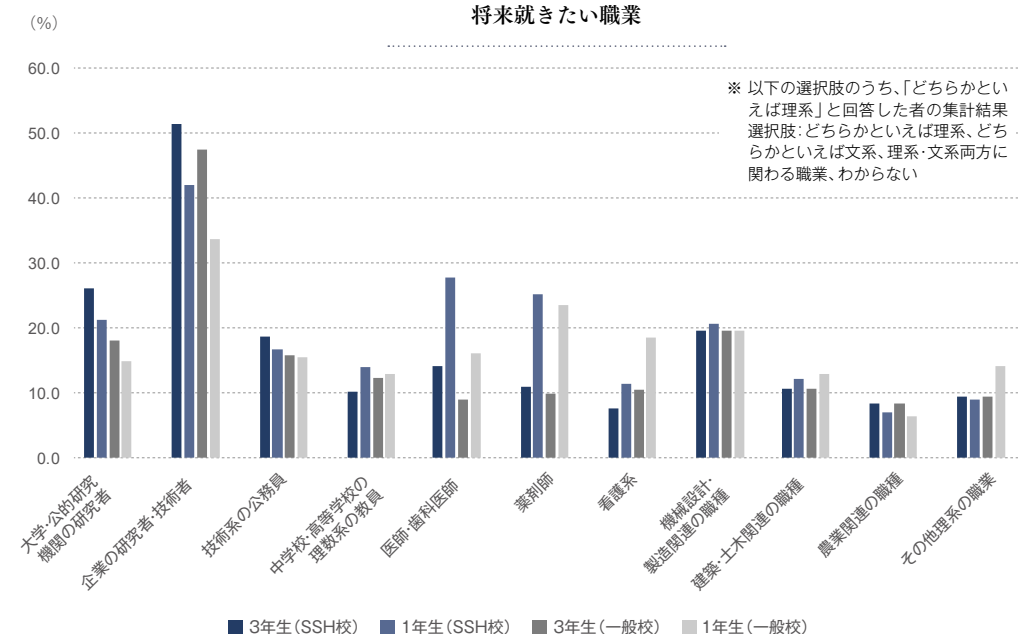
【令和6年度SSH意識調査】国立研究開発法人科学技術振興機構

大学院への進学希望



【令和2年度SSH支援事業の成果検証に関する調査】文部科学省

将来就きたい職業



【令和2年度SSH支援事業の成果検証に関する調査】文部科学省

SHOWCASE

事例

SSH指定校の実践事例と成果

具体的な事例を公開しています。ぜひご覧ください。



スーパーサイエンスハイスクール実践事例集

SSH指定校の特色ある取組の一端を紹介しています。

[リンク]文部科学省ウェブサイトトップ> 科学技術・学術> 科学技術関係人材の育成・確保> 学校教育段階における科学技術人材育成支援> スーパーサイエンスハイスクール(SSH)
https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzhai/gakkou/1309941.htm



SSH指定校による成果物

各校のウェブサイト等に掲載された成果物(教材等)へのリンク集です。フリーワード、カテゴリまたはキーワードのいずれかで成果物の検索が可能です。

[リンク]SSHウェブサイトトップ> 事例と成果> 【成果】成果物
<https://www.jst.go.jp/cpse/ssh/result/artifact/index.html>



SSH 指定校の 特徴的な取組

SSH 指定校では、各学校で作成した計画に基づき、独自のカリキュラムによる授業の展開や、大学・研究機関との連携による授業、地域の特徴を活かした課題研究などに積極的に取り組み、普段の高校生活では出会えない人との出会い、交流、研修による体験、発表等を行っています。さまざまな取組の中から、特徴のあるものをいくつか紹介します。

創 成 期

県内外・海外連携校との他校交流を通じて、グローバルな視点を持った科学技術人材育成の取組と探究活動の深化につながる地域の交流拠点の構築

山形県 Ⅱ期 広域連携

山形県立東桜学館中学校・高等学校

同校は、令和4年度から国際英語プレゼンテーション大会（START）を主催し、県内外や海外の学校と連携した研究発表会を行っています。発表会は生徒主体で英語で進行され、タイの協力校に加え新たな海外校も参加し、国際的な大会に発展してきました。中間発表会はSSH校の他にも県内の探究科・探究コース設置校からの参加もあり、発表後には他校生徒・教員との交流会を行い、地域の課題研究の先進校として交流拠点の役割も果たしています。令和6年度の教員交流会では開発した教材「探究の指針」を活用し、各校の探究活動の取組を研究し、教員の指導力向上も図っています。



同校主催の国際英語プレゼンテーション大会閉会式

発 展 期

「研究は違いを生む“Research Makes The Difference”を
合い言葉に生徒・教員、全校、地域を含めた学び合い

埼玉県 Ⅲ期 課題研究

埼玉県立熊谷西高等学校

「熊西学びのライン」として授業・学校行事・部活動等の日常あらゆる場面において「発信による学び合い」を促進しています。すべての教科においてSS科目やSS行事を設定し、教科横断・融合的な学習方法も取り入れ、知識の活用を通して探究力の基礎を育成します。同校教員による指導を基本として理数科の課題研究では大学・研究所と連携して専門性を高め、普通科の探究活動では自治体・企業と連携し、幅広い地域課題の解決等による実践を通して科学的思考力・問題解決力を伸ばします。さらに全校発表における質疑応答を通じて思考力・判断力・表現力等を育成しています。



全校発表会における質疑応答の様子

重点校

埼玉県 Ⅱ期 海外研修

さいたま市立大宮北高等学校

同校は、重点校による海外連携を推進しています。世界各国・地域にある同校の連携校と毎月1回以上のオンラインによる交流プログラムを実施しています。また、同校の特色でもあるICTを活用し、Pacific Rim Online Program（PROP）として連携校が一堂に会する場を主催し、科学をテーマに議論しています。PROP2024は「月への移住」をテーマにしました。ハワイ、インドネシア、台湾などの学校に加え、新たにインドや韓国とも連携を始めることができました。現地での海外研修も含めて、グローバルサイエンスリーダーの育成を目指しています。



PROP2024 会場の様子

「世界各国・地域の連携校をつなぐハブスクール」環太平洋（Pacific Rim）地域を中心に、世界の価値観をつなぎ合わせています

発 展 期

千葉県 Ⅲ期 高大連携

学校法人芝浦工業大学 芝浦工業大学柏中学高等学校

前期（4月～9月）は大学の講義を2講座受講し、大学生と共にグループワークや課題に取り組みます。また、同校教員の指導のもと、自分の興味のあるテーマについて先行研究を調査し、生成AIの活用方法について学ぶなどしながら、後期の10月からは高大連携研究の計画書を作成します。育成すべき資質・能力に係る共通理解のもと、大学教員や大学院生からのアドバイスにより研究計画を改善し、その後も定期的に指導を仰ぎながらおよそ4か月にわたり研究を進めます。年度末の2月に同校で開催される生徒探究発表会においてその成果を校内外に向け発信します。



大学の研究室でのゼミ発表の様子

芝浦工業大学へ進学を希望する高校3年生が大学の講義を履修したり、志望する研究室と連携しながら課題研究に取り組んだりする教育プログラムの開発

発 展 期

東京都 Ⅲ期 企業・大学との連携

東京学芸大学附属高等学校

特別授業「無重力実験講座」は10年後の宇宙生活を豊かにすべく、生徒・教員・研究者が対等な立場で協働する探究プロジェクトです。東京学芸大学Explayground推進機構「無重力探究ラボTGμ」が運営に関わり、外部の大学や企業などとの連携が進み、微小重力実験の輪が広がりました。その結果、JAXA主催のAsian Try Zero-Gに採択され、生徒が考案した実験を国際宇宙ステーションで実施されました。

また、探究活動の支援に関して協定を結んでいる工学院大学とは、データサイエンスを題材とした特別授業「DX実践講座」を共同で開発しています。



「無重力実験講座」落下実験装置の開発作業

「一緒に何かやりませんか」精神で、宇宙に、データサイエンスに、さまざまな企業や大学とつながりながら新たな教育の場を創造しています

発 展 期

東京都 Ⅳ期 指導体制

東京都立小石川中等教育学校

同校では、全教科の教員で課題研究カリキュラム「小石川フィロソフィー」を指導する体制を構築しています。前期課程で国語科・数学科が課題研究の基礎的スキルを培う指導を行ったのち、全教科でプレ課題研究の指導にあたります。後期課程で「理数探究基礎」と「情報Ⅰ」で理科・数学科・情報科が連携し探究意欲やデータ活用能力を高め、5、6年生で全教科の教員が、専門性を生かした高度な課題研究の指導にあたっています。また、運営指導委員の大学教授や卒業生が登録するメンターバンクを活用した人材の活用により、課題研究の指導をさらに充実させています。



4年生（高1）のPC端末を活用した理数探究基礎の授業

6年間を通し、生徒全員が課題研究に取り組むカリキュラムを実施
全教科の教員が専門性を生かし課題研究の指導にあたる指導体制を構築

リーディング期

福井県 先導的改革Ⅰ期 研究成果の共有・継承

福井県立高志高等学校

先導的改革Ⅰ期では、「未来を創造する探究力を備え科学技術イノベーションを担う人材の育成システム構築」を研究開発課題とし、生徒が外部ネットワーク等を積極的に活用できる研究支援システムの構築に取り組んでいます。生徒の課題解決能力の伸長について、自己評価と客観評価を用いた調査を行い、校内研修会等で分析し、取組の改善を図っています。また、研究成果の発信・普及を目指し、同校主催の「福井県合同課題研究発表会」と並行して、ポスター発表を参観しながら効果的な評価方法を探る教員研修や、県内の教員同士が学び合う探究ワークショップを開催しています。



同校主催の県内教員のための探究ワークショップ

科学技術イノベーション人材の育成システム構築とその成果の共有、
県内外への発信・普及を目指した先導的改革期としての取組



愛知県

先進的改革Ⅰ期

地区合同発表会

愛知県立岡崎高等学校

「科学三昧 in あいち」は同校とあいち科学技術教育推進協議会が毎年度主催している研究成果発表会です。県内SSH指定校を含むあいち科学技術教育推進協議会の連携校等の生徒による課題研究の成果発表、大学・研究機関・企業の研究者によるブース発表や研究指導が行われます。令和6年度は、自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンターで開催しました。県内外含め75団体から集結した約800名の参加者により200件を超える発表が行われ、会場が熱気に包まれました。今大会では初めてハイブリッド開催に挑戦し、現地での口頭発表を全国に向けてオンライン配信しました。



ポスター発表の様子



和歌山県

Ⅳ期

教員研修

和歌山県立向陽高等学校・中学校

同校ではSSH事業を中心に、すべての教育活動を通して「気づく力」「起こす力」「読む力」「教え合う力」の育成を目指しています。Ⅲ期までのSSH事業で培ったノウハウを各教科に広げ、探究型授業や教科等横断型授業を実践しています。公開授業では「見に来て！シート」や「合い（愛）の手letter」を活用し、授業改善に取り組んでいます。毎年、「KOYO科学の大輪祭」と銘打って生徒課題研究発表会「向陽SSH成果発表会」と公開授業「KOYOの力を育む授業研究会」を開催し、県内外の先生方と教員研修会を実施することでその成果を共有しています。



教科等横断型授業「物理」×「美術」の様子

「生徒が主役の授業へ」全教職員で取り組む授業改善
対話を重視した探究型授業や教科等横断型授業の開発とその普及



三重県

Ⅲ期

科学オリンピック

三重県立伊勢高等学校

国際科学技術コンテスト（物理・化学・生物学・地学・数学・情報）の各強化講座を開催しています。講師には大学教授を招へいし、高校の授業では得難い体験をすることで、科学オリンピックへの挑戦に向け、生徒の探究心の育成に貢献しています。この取組は、同校だけでなく他校の生徒にも呼び掛けることで、生徒間の交流を促し向上心の刺激にもつながっています。さらに、ティーチングアシスタントとして教員志望の大学生にも参加を募り、取組のノウハウを大学生が学び、教員になった際に指導に生かせるようにするなど「新しい形の異校種間連携」が行われています。



化学講座における指紋採取実験



鳥取県

Ⅰ期

指導体制

鳥取県立鳥取西高等学校

文理融合型のカリキュラムを実現するため、毎週開催するSSH推進委員会を中心に、課題研究と学校設定科目、各種研修プログラム等の指導体制を体系化しました。特に教科横断型授業を促すため、学年ごとに教科・科目のカリキュラムを一覧化し、シラバスには横断（教科横断型授業）・SS（文系教科でのサイエンス単元）・課研（課題研究スキルの育成）のマークを記載するといった見える化を行って取り組みやすくしました。教員は学校全体で教科間の関連を確認しながら授業づくりに活用し、新たな教科横断型授業を開発して授業研究会を実施するなど、授業研究の蓄積が進んでいます。



課題研究Ⅰで展開したPBLでの中和滴定実験

文系・理系を問わず科学的素養を育てることをねらいとした「学際融合型プログラム」に全生徒・教員が一体となって取り組んでいます



大阪府

Ⅲ期

評価・検証

大阪府立三国丘高等学校

「ホンモノ」に触れる多様な体感校外学習、実験を生徒がデザインする実践科学実験など、生徒が主体的に取り組む活動を実施しています。評価に関しては、各探究分野で指導用のループリックを毎年見直し、特に数学では仮説用と検証用のループリックを開発し対応しています。また、協働力の育成にも力を入れ、マルチプルインテリジェンス理論について教員向け研修を実施し生徒の8つの知能のプロファイルを元に班分けしたり、生徒同士のフィードバックを複数回実施したりすることで、生徒がチーム内での関係性の質を高め合いながら探究活動に取り組めるようなカリキュラムを構築しています。



探究活動の様子

予測困難な時代に活躍できる理工系人材を育成するため、科学を感じ、自ら行動し、メンバーと関係の質を高め合えるシステムを構築



熊本県

Ⅰ期

カリキュラム開発

熊本県立鹿本高等学校

同校では、1年次に複数の教科で1つのテーマを扱う分野融合型授業「鹿本STEAM」と、全教員がそれぞれの学年において自由な発想で行う「探究型クロスカリキュラム」の2種類の「クロスカリキュラム」を展開しています。生徒の興味・関心を引き出し、知識と経験、分野と分野、人と人をつなぐ授業実践から、コンテスト入賞や進路実現を果たした生徒も多数います。また、SSH指定後、多くの教員が「生徒が学びに積極になった」「進路を含め、生徒、教員の視野が広がった」と感じており、SSHの取組が学校のよりよい変容につながっています。



クロス(保健×化学)での実験風景

2種類の「クロスカリキュラム」がもたらす学校の変化、生徒の学び姿勢の変化、教科を越えた教員間のつながりによる授業の変化、視野の広がり



兵庫県

Ⅲ期

外部連携

兵庫県立三田祥雲館高等学校

同校では、近隣の博物館や大学、自治体等との連携を深め、生徒の探究活動を支援しています。また、生徒全員を「Student Researcher」と位置付け、放課後や休日等、授業時間を超えて探究活動に取り組めるよう体制を整えています。例えば、自分たちの研究を深めるため、生徒自身が自治体や企業に連絡を取り指導を仰ぐグループが多数あります。また、授業時間に大学や博物館の研究者から助言を受け休日等に研究室を訪問し、研究を進めるグループもあります。博物館との連携では、研究を発展させて企画展で発表したり地域の子ども向けセミナーを開催したりしています。



博物館企画展の発表レイアウトを相談中

生徒全員を「Student Researcher」と位置付け、生徒の主体的な探究活動を支援しています



鹿児島県

Ⅳ期

発表会

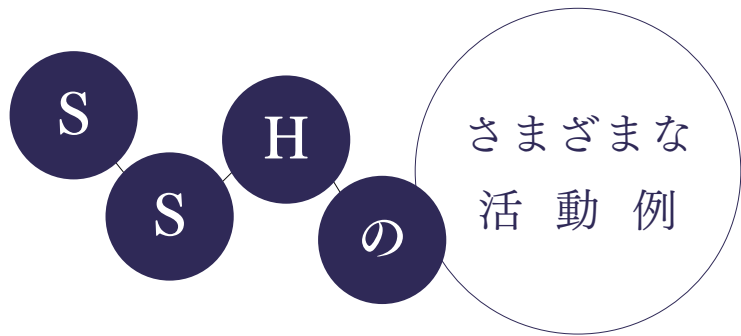
学校法人池田学園 池田中学・高等学校

鹿児島から全国の児童・生徒の科学探究への意欲を普及・拡大するねらいで、平成30年度から国際科学コンテスト（GSA）を継続開催しています。11月初旬に、国内外の高校生を中心に最大90チームが覇を競い、来場・オンライン・日本語・英語のハイブリッド形式で実施。研究者22人により予選審査・決勝審査が行われ、その間、講演会も催します。共催の千葉工業大学からの協力もあり、多数の企業・大学の協賛も受け、文部科学大臣賞以下、多様な賞を設けています。令和6年に累積の発表者が千人を超えました。今後も満足度を高め、日本を代表する大会となるよう努めます。



第7回受賞者記念撮影

グローバルサイエンティストアワード「夢の翼」(GSA)―多くの指定校・一般校が参加し、科学探究への夢の普及を目指す国際科学コンテスト



SSH 指定校では理科・数学等に重点を置いたカリキュラムの開発や大学等との連携など、様々な取組を行っています。特色のある学校はどのような取組をしているのか教員等の目線で紹介するとともに、Topics となるニュースや取組を紹介します。

INITIATIVES

活動

SSH 指定校の校長や教員の活動

地域の学びの場～東三河 STEAM 教育フォーラム～

愛知県立時習館高等学校 校長 寺田 安孝

同校は、愛知県の東三河地区にある普通科高校です。第1期から現在の第IV期までの間、SSH 指定校として成果を示してきました。令和8年度からは中高一貫校へ移行するなど、学校改革にも取り組んでいます。第IV期 SSH の特徴である「東三河 STEAM 教育フォーラム」では、地域の小・中・高・特支の各学校に所属する教員や生徒の資質向上を目的とする様々なイベントを企画し、普及・啓発・発信を図るなど、地域との連携による質の深い探究活動を推進しています。フォーラムにおける探究活動の例として、水産高校の実習船を活用した「東三河海洋環境探究講座」や博物館等との連携による小中学生対象の科学講座「サイエンスフェスタ」など多様な企画があります。今後は、専門学科を有する県立高校とのさらなる連携や、国内外の大学や姉妹校との連携による文理が融合した質の深い探究活動を展開することで、地域の児童生徒達とともに高め合う場となることを期待しています。



サイエンスフェスタ

自分で見つけた不思議を追究できる生徒の育成を目指した課題研究の指導

茨城県立日立第一高等学校・附属中学校 教諭 古澤 亜紀

「未だ科学で解けない不思議を一つでも多く解明したい。その為には理数科学に興味関心を持つ人を増やす事が必要だ。」これは私が理科の教員を目指した理由です。そのため、大学院は理学部から教育学研究科へと進学し学位を取得しました。そして、学生時代から現在まで、女子中高生の理工系進路選択を支援する「女子中高生夏の学校」にスタッフとして参加もしています。そんな私の目標は、生徒の理系進路選択のロールモデルとなることと、身近にある不思議に気付く追究できる生徒を育てることです。同校の SSH 事業の主軸は課題研究です。文理を問わず、生徒が自分で気付いた不思議に立ち向かえるようにしたいと、第IV期からは普通科の課題研究の充実にも取り組んでいます。同校の教員と共に第III期までに SS クラスの課題研究指導で培ったスキルを、普通科に普及すべく授業内容を検討しており、今後は第IV期完成に向け、SS クラスを軸に普通科の課題研究の質を更に向上させたいと考えています。



普通科課題研究指導の様子

INITIATIVES

取組

ALL 高知の連携で進める自走と普及の取組

高知県立高知小津高等学校 教諭 野並 邦充

同校は令和6年度から SSH 認定校の指定を受け、管理機関である県や学校独自の予算による自走の取組を始めました。地方の県立高校が自走するには、管理機関からの支援が必須となります。そのため、重点校の広域連携を参考にした高知県版広域連携「ALL 高知・連携事業」を立ち上げ、高知県版 SSH 推進事業費などの支援を受けながら自走を推進しています。

ALL 高知・連携事業は、同校の生徒を対象としていた活動に他の県立高校からの参加を可能にするなど、これまでの高大連携事業の枠組みを再構築した取組です。このことにより、多様な実践活動の横への展開・普及も実現することができました。また、事業の一部を管理機関との共催とすることで、予算支援に加えて人的支援も確保することができました。

今後は県内の大学や専門機関、企業等との事業共催や連携協定を視野に入れた自走を推進し、持続可能な取組としてさらに広く展開・普及を進めたいと考えています。



管理機関との共催による「ALL 高知・連携事業」

EVENT

情報交換会

校長・教員等を対象とした 情報交換会・教員研修の開催

各校の事例紹介、期別・テーマ別協議で取組を共有。教員研修も開催

各指定校の SSH 事業の向上を目的に、校長・教員、管理機関担当者・SSH コーディネーター等を対象とした情報交換会を開催しました。令和6年度もオンデマンド配信による全体会・全体発表と対面による分科会（12月26日開催）の二部形式とし、分科会には約540名が参加しました。

オンデマンド配信では各期や分科会テーマ別に校長や教員が事例を発表。対面での校長等分科会では各期や各校種に共通する課題を、教諭等分科会では「科学的な探究活動の深化」「生徒の変容を測る方法」や新たに加わった「データサイエンスを取り入れた実践」等をテーマに、活発に意見交換する場となりました。

前日には希望者を対象に、日本科学未来館において教員研修を開催。約150名が参加し、同館提供の「探究学習プログラム」の紹介や教員によるパネルディスカッション、展示見学等を通し、探究活動の更なる充実に向けて有益な情報共有が行われました。



情報交換会(教諭等分科会)の様子



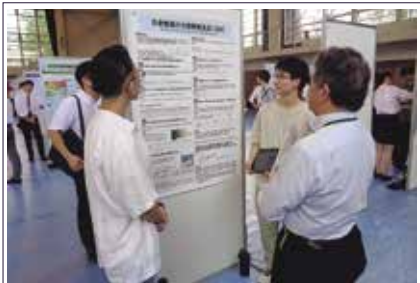
教員研修の様子

Topic 1

発表の場と人とのつながりを大切にした ISEF につながる指導

宮城県仙台第三高等学校 教諭 菅原 佑介

同校は、平成22年度に SSH に指定を受けて以来、令和7年度で第III期4年目を迎えます。私は11年間自然科学部の顧問を務め、ISEF へ発表する課題の研究指導に3回携わりました。ISEF につながる指導をする上で、生徒への研究指導はもちろん大切ですが、それ以上に「生徒に発表させること」と「人とつながること」を大切にした指導をしています。生徒は、校内発表や学会等での外部発表を通して運営指導委員をはじめ様々な方から指導・助言をもらえます。質疑応答を通じて顔見知りとなり、その後、他の発表会で再会することが多々あります。その際、進めた研究に関して親身になって指導してもらえ、研究の質がどんどん磨かれていきます。こうした発表を通じた人とのつながりがのちに様々な要因となり ISEF につながりました。私は11年間で発表の場を通じて多くの方と知り合いになり、生徒を指導する上で本当にたくさんの協力をいただきました。今後も人とのつながりを生徒共々大切にしていきたいです。



学会発表と質疑応答の様子 ISEF につながる指摘を得た

Topic 2

SSH ウェブサイトと SSH ロゴをリニューアル

必要とする情報にユーザーがスムーズにアクセスできるよう、SSH のウェブサイト进行を令和6年11月にリニューアルしました。SSH 指定校の取組事例や成果物といった各種情報を広く掲載していますので、ぜひご覧ください。

また、SSH のロゴを令和7年2月にリニューアルしました。旧ロゴが広く社会に認知されていることに鑑み、フォントや構成を概ね継承したデザインとしました。

外枠を取り除くことで枠にとらわれない取組を、複数の色がグラデーションしながら混ざること、多様なものが変化・変容し、融合していくことをイメージしています。



SSH ウェブサイトトップページ



新ロゴ



旧ロゴ

SSH

TOPICS



スーパーサイエンスハイスクール 生徒研究発表会

Super Science High School Students Fair

SSH 生徒研究発表会は日本全国の SSH 指定校等の代表生徒が集結し、日頃の課題研究の成果を発表するイベントです。令和 6 年度は、SSH 指定校及び過去に指定経験のある学校のうち参加を希望した学校（231 校）がポスター発表を実施し、多くの見学者が来場しました。代表校による全体発表及び表彰の様子は、来場者以外の方も視聴できるように YouTube ライブで同時配信を行いました。

開催概要

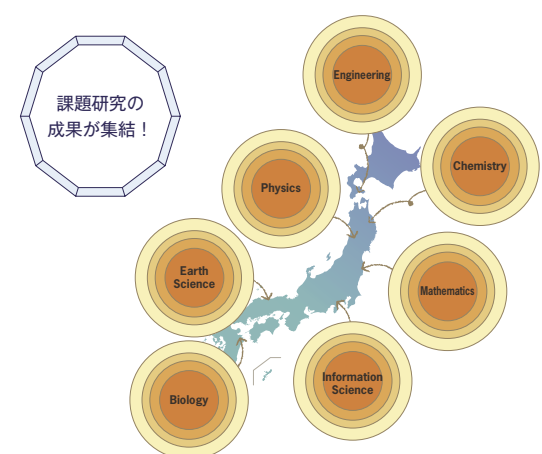
1 日目 8 月 7 日	◆◆ ポスター発表 ◆◆ 代表校選出 ◆◆ 分野別講評	来場者及び審査委員へのポスター発表と、参加者間での交流を行いました。
2 日目 8 月 8 日	◆◆ 代表校発表 ◆◆ 表彰 ◆◆ 全体講評	1 日目のポスター発表より選出された代表校 6 校の全体発表及び表彰式を行いました。



ポスター発表

日本全国の
SSH 指定校等による
ポスター発表

SSH 指定校等が、課題研究等の取組や成果についてポスター発表を行いました。令和 6 年度は見学者の人数制限をなくし、発表校の見学生徒や保護者等が多数来場しました。熱意のこもった発表と活発な質疑応答が行われました。



代表校による 全体発表

代表校による 研究成果の発表



審査により選出された代表校 6 校が口頭発表を行いました。YouTube ライブで同時配信も行い、代表校の研究に対する熱い思いと創意工夫に満ちた発表を SSH 指定校の教員・生徒・保護者等の広範な方が視聴しました。会場では活発な質疑応答が行われ、参加者同士で科学に対する意見を交換する有意義な場となりました。

兵庫県立神戸高等学校



ワモンゴキブリにおける数値の視覚的認識と短期記憶

名古屋市立向陽高等学校



アミロプラストと光刺激～光屈性は重力屈性を抑制する?!～

埼玉県立浦和第一女子高等学校



石垣内部から探る「はらみだし現象」の原因

兵庫県立宝塚北高等学校



Mg 電池の固体化及び二次電池化への可能性の検討

群馬県立前橋高等学校



スマート自転車「トマルくん」の開発

学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校



えにわ市街地に降り積もる雪の観測
～2 年間のフィールド調査で見えてきた地域特性～

表彰

文部科学大臣表彰のほか、各賞に選ばれた SSH 指定校に表彰状を授与

文部科学大臣表彰のほか各賞に選ばれた SSH 指定校に賞状授与を行い、各校の自信に満ちあふれた表情が印象に残る表彰式となりました。



生徒研究発表会

文部科学大臣表彰（1校）

埼玉県立浦和第一女子高等学校

科学技術振興機構理事長賞（2校）

学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校

兵庫県立神戸高等学校

審査委員長賞（3校）

名古屋市立向陽高等学校

群馬県立前橋高等学校

兵庫県立宝塚北高等学校

奨励賞（6校）

学校法人ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校

大阪府立天王寺高等学校

山形県立致道館中学校・高等学校

学校法人中央大学 中央大学附属高等学校

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校

新潟県立新潟南高等学校



ポスター発表賞（26校）

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

福島県立会津学鳳高等学校・中学校

滋賀県立膳所高等学校

奈良県立青翔高等学校・青翔中学校

宮城県仙台第三高等学校

福島県立福島高等学校

川口市立高等学校

東京都立小石川中等教育学校

兵庫県立加古川東高等学校

熊本県立天草高等学校

鹿児島県立錦江湾高等学校

学校法人池田学園 池田中学・高等学校

学校法人豊島岡女子学園 豊島岡女子学園中学校・高等学校

大阪府立四條畷高等学校

学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校

和歌山県立向陽高等学校・中学校

愛媛県立松山南高等学校

長崎県立大村高等学校

宮城県古川黎明中学校・高等学校

埼玉県立熊谷西高等学校

学校法人芝浦工業大学 芝浦工業大学柏中学高等学校

神奈川県立多摩高等学校

学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校

福井県立藤島高等学校

滋賀県立虎姫高等学校

静岡県立清水東高等学校

生徒投票賞（10校）

奈良女子大学附属中等教育学校

滋賀県立膳所高等学校

山梨県立韮崎高等学校

佐賀県立致遠館高等学校・佐賀県立致遠館中学校

学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校

学校法人中央大学 中央大学附属高等学校

お茶の水女子大学附属高等学校

学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校

栃木県立大田原高等学校

静岡県立清水東高等学校

※ SSH 指定校番号（指定年度別に事務的に設定している番号）順に記載

文部科学大臣表彰

歴代受賞校

※文部科学大臣奨励賞（H16-H20）、文部科学大臣表彰（H21-）を受賞

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

水に吸着することで撥水するオオサンショウモの不思議な仕組み

2023
令和5年度

学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校

校内サギソウ（*Habenaria radiata*）群落の送粉者の研究

2021
令和3年度

東京都立小石川中等教育学校

変形菌イタモジホコリの変形体における自他認識行動

2019
平成29年度

兵庫県立加古川東高等学校

微小重力下での濡れ性による水の挙動

2017
平成29年度

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校

“副実像”の出現位置の数式化に成功

2015
平成27年度

茨城県立水戸第二高等学校

アカガエル2種の繁殖期の研究

2013
平成25年度

兵庫県立三田祥雲館高等学校

接合型色素増感太陽電池

2011
平成23年度

京都府立洛北高等学校

天然染料を使ったインクジェット印刷

2009
平成21年度

奈良女子大学附属中等教育学校

モーションキャプチャシステムの開発とその応用

2007
平成19年度

秋田県立大館鳳鳴高等学校

クマムシの研究

2005
平成17年度

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

風を味方に昆虫を誘う！？
～ネジバナはなぜ花で螺旋を描くのか～

2022
令和4年度

神戸大学附属中等教育学校

チョウの翅の撥水性と微細構造の関係
－水接触角・滑落角の観点から－

2020
令和2年度

鹿児島県立国分高等学校

幸屋火砕流の影響から7300年立ち直れていない？
～大隅諸島のエンマコガネと幸屋火砕流の関係～

2018
平成30年度

福岡県立香住丘高等学校

水平軸回転飛行物体の飛行性能の向上に関する研究
－風力発電機への応用を目指して－

2016
平成28年度

福島県立福島高等学校

ベンザインの合成を目指して

2014
平成26年度

広島県立広島国泰寺高等学校

水噴流による水輸送倍増効果

2012
平成24年度

兵庫県立神戸高等学校

数理生態学に基づく感染症の流行予測
～感染症モデルの構築と数学的考察～

2010
平成22年度

佐野日本大学高等学校

加速度の視覚認識装置の開発と研究

2008
平成20年度

大阪府立天王寺高等学校

メビウスの帯についての考察

2006
平成18年度

広島県立広島国泰寺高等学校

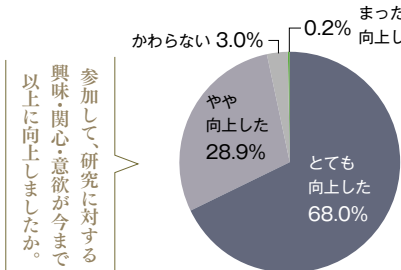
オオサンショウウオの遺伝子解析

2004
平成16年度

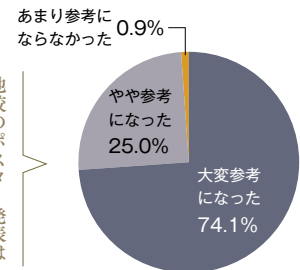
スーパーサイエンスハイスクール

生徒研究発表会 参加の成果

令和6年度スーパーサイエンス
ハイスクール生徒研究発表会
参加者アンケートより



参加して、研究に対する興味・関心・意欲が今まで以上に向上しましたか。

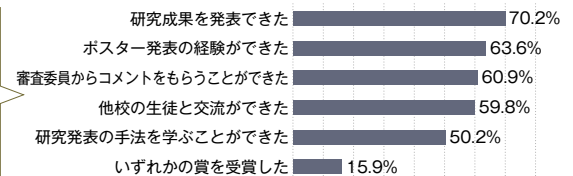


他校のポスター発表は参考になりましたか。

参加生徒のコメント

- ★自分がどのような研究をしたいかなど、方向性を考えたり、自分の研究のイメージを持つことが出来た。発表校の内容はとても興味深く、非常にレベルが高いと感じた。
- ★どこに着眼してテーマを設定をしたかについて、いつどのような時に思いついたかなど着想を得る方法が参考になった。
- ★幅広い種類の探究が行われていた。とくに身近にある現象を自分たちができる範囲で原因の解明をしているところがとても興味深かった。
- ★他校の発表を聞いて新たな知識を得ることができ、興味も広がった。自分たちの発表と比べて、発表や研究の参考になることをたくさん吸収できた。似たテーマの学校の生徒とも交流でき、新たな情報を得られたこともよかった。

参加して良かったことは何ですか。（複数選択可）



S

S

H

指

定

校

一

覧

SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL

令和7年度

➔ 指定校 ➔

230校

指定年度	学 校 名	期数	文理融合	分類
------	-------	----	------	----

北海道

02	北海道札幌啓成高等学校	Ⅲ		経
02	北海道函館中部高等学校	I		経
03	北海道旭川西高等学校	Ⅲ		
04	北海道北見北斗高等学校	Ⅱ		
04	市立札幌開成中等教育学校	Ⅲ		
05	北海道釧路湖陵高等学校	Ⅲ		
05	市立札幌旭丘高等学校	I		
05	学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校	Ⅲ		
06	北海道滝川高等学校	Ⅲ		
06	学校法人立命館 立命館慶祥高等学校	Ⅲ		重

青森県

05	青森県立青森高等学校	Ⅱ		
06	青森県立五所川原高等学校	I		

岩手県

04	岩手県立金石高等学校	Ⅲ		
07	岩手県立一関第一高等学校・ 附属中学校	Ⅱ		

宮城県

04	宮城県仙台第一高等学校	Ⅲ		
04	宮城県仙台第三高等学校	Ⅲ		
05	宮城県多賀城高等学校	Ⅱ		
06	宮城県古川黎明中学校・ 高等学校	Ⅲ		

秋田県

05	秋田県立秋田中央高等学校	Ⅲ		
06	秋田県立横手高等学校	Ⅱ		

山形県

03	山形県立酒田東高等学校	I		
04	山形県立東桜学園中学校・ 高等学校	Ⅱ		
04	山形県立米沢興譲館高等学校	Ⅳ		
05	山形県立致道館中学校・ 高等学校	Ⅲ		

指定年度	学 校 名	期数	文理融合	分類
------	-------	----	------	----

福島県

03	福島県立会津学鳳高等学校・ 中学校	Ⅲ		
04	福島県立福島高等学校	Ⅳ		
06	福島県立安積中学校・高等学校	Ⅲ		融

茨城県

04	茨城県立並木中等教育学校	Ⅲ		
04	茨城県立日立第一高等学校・ 附属中学校	Ⅳ		
04	学校法人清真学園 清真学園高等学校・中学校	Ⅳ		
05	茨城県立水戸第二高等学校	Ⅳ		
05	学校法人茗溪学園 茗溪学園中学校高等学校	Ⅲ		
06	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・ 附属中学校	Ⅲ		融 重

栃木県

05	栃木県立栃木高等学校	Ⅲ		
06	栃木県立大田原高等学校	Ⅱ		融
07	栃木県立宇都宮東高等学校・ 附属中学校	I		

群馬県

03	群馬県立高崎高等学校	Ⅳ		
04	群馬県立桐生高等学校	Ⅳ		
05	群馬県立前橋女子高等学校	Ⅲ		
06	群馬県立前橋高等学校	Ⅱ		

埼玉県

02	埼玉県立春日部高等学校	Ⅲ		経
04	埼玉県立川越女子高等学校	Ⅳ		
04	さいたま市立大宮北高等学校	Ⅱ		重
04	川口市立高等学校	I		
05	埼玉県立越谷北高等学校	Ⅱ		
05	埼玉県立松山高等学校	Ⅲ		
05	埼玉県立浦和第一女子高等学校	認		
06	埼玉県立熊谷西高等学校	Ⅲ		
06	埼玉県立所沢北高等学校	I		

期 数	I～Ⅳ	I～Ⅳ期の指定を受けた学校
先導	認	先導的改革期の指定を受けた学校
		先導的改革Ⅰ期は「先導Ⅰ」と表記
文理融合	融	文理融合基礎枠として採択された学校
	重	科学技術人材育成重点枠に採択された学校
	経	5年間あるいは3年間の指定後、 経過措置Ⅰ・Ⅱ年の指定を受けた学校

千葉県

03	千葉県立長生高等学校	Ⅲ		
04	千葉県立木更津高等学校	Ⅱ		
04	千葉市立千葉高等学校	Ⅳ		重
06	千葉県立佐倉高等学校	Ⅲ		
06	千葉県立船橋高等学校	Ⅳ		
06	学校法人市川学園 市川中学校・高等学校	Ⅳ		
06	学校法人芝浦工業大学 芝浦工業大学柏中学高等学校	Ⅲ		

東京都

31	東京都立戸山高等学校	Ⅳ		経
03	東京都立科学技術高等学校	Ⅲ		
03	東京都立富士高等学校・ 附属中学校	I		
04	東京都立小石川中等教育学校	Ⅳ		
04	東京都立多摩科学技術高等学校	Ⅲ		重
04	東京都立日比谷高等学校	Ⅳ		
04	東京科学大学附属科学技術高 等学校	認		
05	東京都立立川高等学校	Ⅱ		
05	学校法人玉川学園 玉川学園高等部・中学部	Ⅳ		
05	学校法人中央大学 中央大学附属高等学校	Ⅱ		
05	学校法人豊島岡女子学園 豊島岡女子学園中学校・高等学校	Ⅱ		
06	お茶の水女子大学附属高等学校	Ⅱ		
06	東京学芸大学附属高等学校	Ⅲ		
06	学校法人山脇学園 山脇学園中学校・高等学校	I		
06	東京学芸大学附属国際中等教 育学校	Ⅲ		融
06	東京都立国分寺高等学校	I		融
06	筑波大学附属駒場高等学校	認		
06	学校法人東海大学 東海大学付属高輪台高等学校	認		

指定年度	学 校 名	期数	文理融合	分類
------	-------	----	------	----

神奈川県

02	横浜市立横浜サイエンスフロン ティア高等学校	Ⅲ		経
03	神奈川県立横須賀高等学校	Ⅱ		
04	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校	I		
05	神奈川県立小田原高等学校	I		
05	神奈川県立希望ヶ丘高等学校	Ⅱ		
06	神奈川県立相模原高等学校	Ⅱ		
06	神奈川県立多摩高等学校	Ⅱ		
07	神奈川県立厚木高等学校	Ⅲ		
07	神奈川県立平塚江南高等学校	Ⅱ		
07	神奈川県立鎌倉高等学校	I		融

新潟県

05	新潟県立新発田高等学校	Ⅲ		
05	新潟県立長岡高等学校	Ⅳ		
06	新潟県立高田高等学校	Ⅲ		
06	新潟県立柏崎高等学校	Ⅳ		融
07	新潟県立新潟南高等学校	認		

富山県

06	富山県立富山中部高等学校	Ⅲ		
----	--------------	---	--	--

石川県

03	石川県立小松高等学校	Ⅳ		
04	石川県立七尾高等学校	先導Ⅰ		経
04	石川県立金沢泉丘高等学校	認		
07	石川県立金沢二水高等学校	I		融

福井県

05	福井県立高志高等学校	先導Ⅰ		
05	福井県立武生高等学校	Ⅳ		
06	福井県立若狹高等学校	Ⅲ		
06	福井県立藤島高等学校	先導Ⅰ		融

山梨県

04	山梨県立甲府南高等学校	先導Ⅰ		経
04	山梨県立韭崎高等学校	Ⅲ		
04	山梨県立日川高等学校	Ⅲ		
04	北杜市立甲陵高等学校	Ⅲ		

指定年度	学 校 名	期数	文理融合	分類
------	-------	----	------	----

長野県

03	長野県飯山高等学校	Ⅲ		
06	長野県屋代高等学校・ 附属中学校	先導Ⅱ		
06	学校法人松商学園 松商学園高等学校	I		融
06	長野県諏訪清陵高等学校・ 附属中学校	認		

岐阜県

06	岐阜県立恵那高等学校	認		
----	------------	---	--	--

静岡県

06	静岡県立浜松工業高等学校	Ⅲ		
06	静岡市立高等学校	Ⅲ		
06	学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校	Ⅳ		
06	静岡県立清水東高等学校	認		

愛知県

03	愛知県立刈谷高等学校	Ⅲ		
03	学校法人名城大学 名城大学附属高等学校	Ⅳ		
04	愛知県立明和高等学校	Ⅲ		
05	愛知県立一宮高等学校	先導Ⅰ		
05	愛知県立豊田西高等学校	Ⅲ		
05	愛知県立半田高等学校	Ⅲ		
06	愛知県立旭丘高等学校	Ⅱ		
06	愛知県立岡崎高等学校	先導Ⅰ		
06	名古屋大学教育学部附属中・ 高等学校	Ⅳ		融 重
06	愛知県立時習館高等学校	Ⅳ		融
07	名古屋市立向陽高等学校	Ⅳ		

三重県

03	三重県立松阪高等学校	Ⅲ		
04	三重県立伊勢高等学校	Ⅲ		
05	三重県立津高等学校	Ⅳ		
05	三重県立四日市高等学校	Ⅲ		
06	三重県立上野高等学校	Ⅱ		
06	三重県立桑名高等学校	Ⅱ		
06	学校法人高田学苑 高田中・高等学校	I		

滋賀県

03	滋賀県立膳所高等学校	Ⅳ		
05	学校法人立命館 立命館守山高等学校	認		
06	滋賀県立虎姫高等学校	Ⅲ		融

指定年度	学 校 名	期数	文理融合	分類
------	-------	----	------	----

京都府

04	京都府立嵯峨野高等学校	Ⅲ		
04	京都市立堀川高等学校	認		重
05	京都市立京都工学院高等学校	I		
05	学校法人立命館 立命館高等学校	先導Ⅱ		重
07	京都府立桃山高等学校	Ⅳ		
07	京都府立洛北高等学校・ 洛北高等学校附属中学校	先導Ⅱ		

大阪府

02	大阪府立生野高等学校	Ⅲ		経
02	大阪府立豊中高等学校	Ⅲ		経
04	大阪府立岸和田高等学校	Ⅲ		
04	大阪府立千里高等学校	Ⅲ		
04	大阪府立天王寺高等学校	先導Ⅰ		経
04	大阪府立三国丘高等学校	Ⅲ		
05	大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎	Ⅲ		
05	大阪府立大手前高等学校	Ⅳ		
05	大阪府立高津高等学校	Ⅳ		
05	大阪府立四條畷高等学校	Ⅲ		
05	大阪府立富田林高等学校・ 中学校	Ⅱ		
06	学校法人大阪医科薬科大学 高槻高等学校・中学校	Ⅲ		
06	大阪府立住吉高等学校	Ⅳ		融
06	学校法人利晶学園 利晶学園大阪立命館高等学校	I		融

兵庫県

02	兵庫県立明石北高等学校	Ⅲ		経
03	兵庫県立尼崎小田高等学校	Ⅳ		重
04	兵庫県立加古川東高等学校	Ⅳ		
04	兵庫県立三田祥雲館高等学校	Ⅲ		
04	兵庫県立豊岡高等学校	Ⅳ		
04	兵庫県立長田高等学校	I		
04	神戸市立六甲アイランド高等学校	Ⅲ		
05	兵庫県立神戸高等学校	先導Ⅰ		
05	兵庫県立龍野高等学校	Ⅲ		
05	西宮市立西宮高等学校	I		
06	兵庫県立宝塚北高等学校	Ⅱ		
06	学校法人親和学園 親和女子 高等学校・親和中学校	I		
07	兵庫県立小野高等学校	Ⅱ		
07	兵庫県立姫路西高等学校	Ⅱ		
07	兵庫県立姫路東高等学校	Ⅱ		
07	神戸大学附属中等教育学校	Ⅱ		融

SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL

令和7年度
⇒ 指定校 ⇐

230校

指定年度	学 校 名	期数	文理融合	分類
------	-------	----	------	----

奈良県

03	奈良県立青翔高等学校・青翔中学校	Ⅲ		重
05	奈良県立奈良北高等学校	I		
05	学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校	Ⅲ		
05	奈良県立奈良高等学校	認		
06	学校法人西大和学園 西大和学園中学校・高等学校	認		
07	奈良女子大学附属中等教育学校	先導Ⅰ	融	

和歌山県

04	和歌山県立海南高等学校	認		
05	和歌山県立向陽高等学校・中学校	Ⅳ		

鳥取県

03	鳥取県立鳥取西高等学校	I		
04	鳥取県立米子東高等学校	Ⅱ		
05	学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校	Ⅱ		
06	学校法人湯梨浜学園 湯梨浜学園中学校・高等学校	I	融	

島根県

04	島根県立益田高等学校	認		
05	島根県立出雲高等学校	Ⅲ		
07	島根県立松江南高等学校	Ⅱ		

岡山県

03	学校法人ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校	Ⅳ		
04	岡山県立玉島高等学校	Ⅳ		
04	岡山県立津山高等学校	Ⅲ		
07	岡山県立岡山一宮高等学校	先導Ⅰ		
07	岡山県立倉敷天城高等学校	先導Ⅰ		
07	学校法人創志学園 創志学園高等学校	I	融	

広島県

04	広島県立西条農業高等学校	Ⅲ		
05	広島大学附属高等学校	先導Ⅰ		

山口県

05	山口県立下関西高等学校	Ⅱ		
07	山口県立徳山高等学校	Ⅳ		

徳島県

02	徳島県立脇町高等学校	Ⅲ		経
06	徳島県立徳島科学技術高等学校	Ⅲ		
06	徳島県立富岡西高等学校	Ⅱ		
07	徳島県立城南高等学校	認		

香川県

04	香川県立観音寺第一高等学校	Ⅲ		
07	高松第一高等学校	Ⅳ		

愛媛県

05	愛媛県立宇和島東高等学校	Ⅲ		
05	愛媛県立西条高等学校	Ⅱ		
05	愛媛県立松山南高等学校	先導Ⅱ		

高知県

06	高知県立高知小津高等学校	認		
07	高知県立高知国際高等学校	I	融	

福岡県

04	福岡県立鞍手高等学校	Ⅲ		
07	福岡県立城南高等学校	Ⅳ		

佐賀県

04	佐賀県立致遠館高等学校・佐賀県立致遠館中学校	Ⅳ		
----	------------------------	---	--	--

長崎県

05	長崎県立大村高等学校	Ⅱ		
05	長崎県立長崎南高等学校	Ⅲ		
07	長崎県立長崎西高等学校	先導Ⅰ	融	重

熊本県

03	熊本県立鹿本高等学校	I		
04	熊本県立天草高等学校	Ⅱ		
04	熊本県立熊本北高等学校	Ⅲ		
04	熊本県立第二高等学校	先導Ⅰ	経	
05	熊本県立宇土中学校・宇土高等学校	Ⅲ		

大分県

02	大分県立大分舞鶴高等学校	Ⅳ		経
03	大分県立日田高等学校	Ⅲ		
04	大分県立佐伯鶴城高等学校	Ⅱ		

宮崎県

06	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校・附属中学校	I		
06	宮崎県立宮崎北高等学校	先導Ⅰ		
07	宮崎県立延岡高等学校	Ⅱ		
07	宮崎県立宮崎西高等学校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	Ⅱ		

鹿児島県

02	鹿児島県立甲南高等学校	I		経
04	鹿児島県立錦江湾高等学校	Ⅳ		
04	学校法人池田学園 池田中学・高等学校	Ⅳ		
05	鹿児島県立国分高等学校	Ⅱ		
06	鹿児島県立鹿児島中央高等学校	Ⅱ		

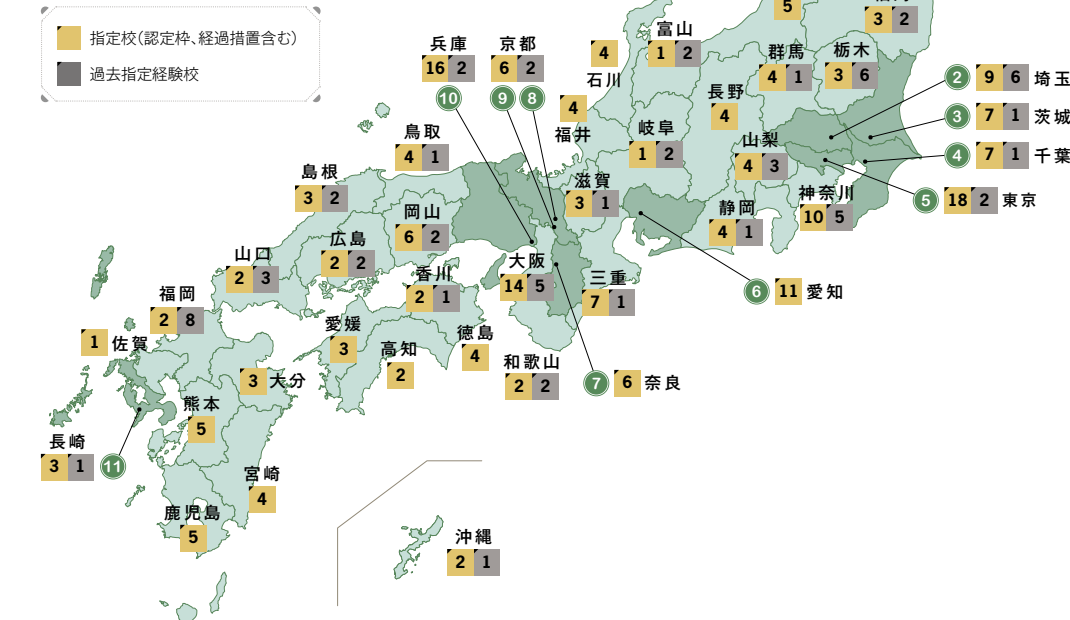
沖縄県

06	沖縄県立球陽高等学校・球陽中学校	Ⅲ		
06	沖縄県立向陽高等学校	Ⅱ		

科学技術人材育成重点枠指定校一覧（11校）

	学校名	種 類	科学技術人材育成重点枠指定期間	指定年度
①	学校法人立命館 立命館慶祥中学校・高等学校	海外連携	07-10（1年目、4年）	06
②	さいたま市立大宮北高等学校	海外連携	05-08（3年目、4年）	04
③	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校	革新共創	06-10（2年目、5年）	06
④	千葉市立千葉高等学校	海外連携	05-08（3年目、4年）	04
⑤	東京都立多摩科学技術高等学校	社会との共創	05-08（3年目、4年）	04
⑥	名古屋大学教育学部附属中・高等学校※	高大接続	06-10（2年目、5年）	06
⑦	奈良県立青翔高等学校・青翔中学校	広域連携	05-07（3年目、3年）	03
⑧	京都市立堀川高等学校	広域連携	04-08（4年目、5年）	04
⑨	学校法人立命館 立命館高等学校	海外連携	06-07（2年目、2年）	05
⑩	兵庫県立尼崎小田高等学校	広域連携	03-07（5年目、5年）	03
⑪	長崎県立長崎西高等学校	広域連携	07-09（1年目、3年）	07

※ 愛知県立旭丘高等学校、愛知県立一宮高等学校、愛知県立半田高等学校、愛知県立明和高等学校、名古屋市立向陽高等学校、学校法人名城大学 名城大学附属高等学校、三重県立津高等学校、三重県立四日市高等学校、他8校でSSHコンソーシアムTOKAI(SSCT)を構成



スーパーサイエンスハイスクールに過去指定経験のある学校一覧（80校）

北海道岩見沢農業高等学校、北海道帯広柏葉高等学校、北海道札幌北高等学校、北海道札幌西高等学校、北海道室蘭栄高等学校、青森県立三本木高等学校・附属中学校、青森県立八戸北高等学校、青森県立弘前南高等学校、岩手県立盛岡第三高等学校、岩手県立水沢高等学校、宮城県宮城第一高等学校、秋田県立秋田北鷹高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校、福島県立磐城高等学校、福島県立相馬高等学校、茨城県立竹園高等学校、栃木県立足利高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、学校法人作新学院 作新学院高等学校、学校法人佐野日本大学学園 佐野日本大学高等学校、学校法人白鷗大学 白鷗大学足利高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、埼玉県立大宮高等学校、埼玉県立川越高等学校、埼玉県立熊谷高等学校、埼玉県立熊谷女子高等学校、埼玉県立不動岡高等学校、早稲田大学本庄高等学院、千葉県立柏高等学校、学校法人文京学園 文京学院大学女子高等学校、早稲田大学高等学院、神奈川県立神奈川総合産業高等学校、神奈川県立西湖高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、慶應義塾高等学校、学校法人聖マリア学園 聖光学院中学校高等学校、富山県立高岡高等学校、富山県立富山高等学校、山梨県立巨摩高等学校、山梨県立都留高等学校、学校法人山梨英和学院 山梨英和中学校・高等学校、岐阜県立岐山高等学校、岐阜県立岐阜農林高等学校、静岡県立磐田南高等学校、三重県立津西高等学校、滋賀県立彦根東高等学校、京都教育大学附属高等学校、京都府立桂高等学校、大阪府立園芸高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪府立泉北高等学校、大阪府立東高等学校、大阪府立都島工業高等学校、兵庫県立大学附属高等学校、学校法人武庫川学院 武庫川女子大学附属中学校・高等学校、和歌山県立桐蔭高等学校、和歌山県立日高高等学校・附属中学校、鳥取県立鳥取東高等学校、島根県立松江東高等学校、学校法人大多和学園 開星中学校・高等学校、学校法人加計学園 岡山理科大学附属高等学校、金光学園中学・高等学校、広島県立広島国泰寺高等学校、安田学園 安田女子中学高等学校、山口県立岩国高等学校、山口県立宇都高等学校、山口県立山口高等学校、香川県立三本松高等学校、福岡県立香住丘高等学校、福岡県立嘉穂高等学校、福岡県立小倉高等学校、福岡県立修猷館高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立八幡高等学校、福岡県立明善高等学校、明治学園中学高等学校、長崎県立諫早高等学校、沖縄県立開邦高等学校